

都道府県・ 指定都市番号	2 1	都道府県・ 指定都市名	岐阜県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	家庭（専門教科）
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○地域の特性を生かした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	ぎ ふ け ん り つ お お が き さ く ら こ う とう が っ こ う 岐阜県立大垣 桜 高等学校（575 人）				
所在地（電話番号）	岐阜県大垣市墨俣町上宿 465-1（0584-62-6131）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="https://school.gifu-net.ed.jp/ogksakura-hs/">https://school.gifu-net.ed.jp/ogksakura-hs/</a>				
研究のキーワード	<p>学科ループリック パフォーマンス課題 地域産業の理解と企業連携 タブレット端末 教科横断型授業</p>				
研究結果のポイント	<p>○地域産業に着目した指導方法の工夫は、地域の核となり、地域とともにある専門高校の生徒としての意識の醸成につながり、生徒自身が身近なところから課題を発見したり、興味関心を高めたりするために有効であった。</p> <p>○商品提案に関する指導方法については、ステップを七つに分けた段階的なパフォーマンス課題を設定、実施した。また、学科ループリック活用することで、生徒自身が身に付けるべき資質・能力を具体的に知ることができ、学習意欲の喚起につなげるなどの行動変容を確認することができた。</p> <p>○地域産業の理解するための指導方法では、ワークシートを作成、活用し、生徒自身が学習過程を認識したり、学習内容の定着度を確認したりして、知識の定着につなげることができた。</p> <p>○タブレット端末を活用した授業においては、よりプレゼンテーション力やコラボレーション力が必要であることに生徒自らが気づき、工夫、改善しようとする姿がみられた。</p> <p>○教科横断型の授業では、普通教科と専門教科の教員間で、科目の学習内容や生徒の様子を共有し、より効果的な授業展開を考え実践し、カリキュラム・マネジメントを通じた授業改善をすることができた。</p>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

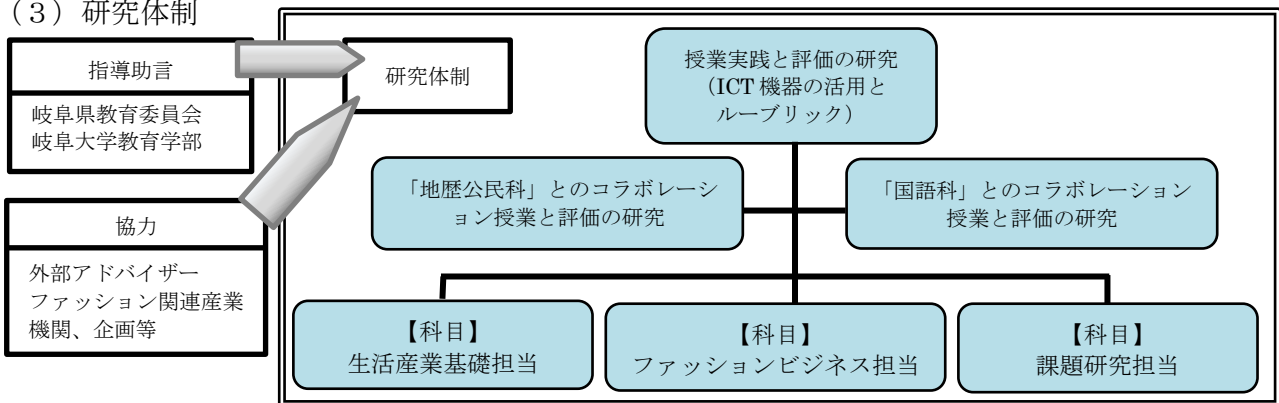
専門教科「家庭」における、地域の特性を生かした指導方法及び評価方法  
～学校と地域の間に好循環を生み出す発信方法の工夫を通して～

### (2) 研究主題設定の理由

服飾デザイン科では、将来ファッション産業界で活躍できる人材育成を目標とし、プロから職業人としての心構えや、専門性の高い知識と技術を学び、資格取得や各種検定、コンクールにも積極的に挑戦している。また、平成27年度から3年間、文部科学省から指定を受け「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業」に取り組み、生徒が地域産業をより深く理解し、知識、技術を身に付けることができたと同時に、教員側も、地域のよさを生徒に伝えることの重要性を認識した。

しかしながら、地域の核となり、地域を担う職業人を育成するためには、発信という点で課題が残った。これまでの研究等を通して提案してきた作品等の成果物をどのように発信していくか、このことが学科はもとより、地域の活性化にもつながると考える。そこで、学科における発信方法の工夫に着眼し、学校と地域との間に好循環を生み出す研究を進めたいと考えた。さらに、服飾デザイン科の約8割の生徒は高等学校卒業後、ファッションに関する上級学校へ進学し、卒業後は、地元ファッション産業で働きたいと考えている。そこで、地域産業を基軸に、地域を支える職業人を育成するための指導方法や評価方法について研究したいと考え、本主題を設定した。

### (3) 研究体制



### (4) 1年目の主な取組

平成30年度	4月	研究内容及び具体的な研究活動についての検討
	6月	ルーブリック評価の見直しと学科ルーブリックの作成 パフォーマンス課題の決定と研究, 事前アンケートの実施
	7月	学校視察 (埼玉県立新座総合技術高等学校・常磐高等学校)
	9月	校内研修「ルーブリック評価」 講師: 京都大学大学院特任教授 田中容子氏
	9月	校外研修「学校公開プレゼンテーション」 埼玉県立常磐高等学校
	10月	校外研修「ルーブリックを活用した学習評価」 岐阜県立岐阜北高等学校 講師 コアネット教育総合研究所 松原和之氏
	10月	校外研修 東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会
	11月	教育課程研究指定校事業研究授業実施 (担当教科調査官指導訪問) 研究授業と今後の研究についての見直し
	11月	校内研究「ICTを活用した授業実践と評価モデル」 講師: 千葉商科大学教授 永井克昇氏
	12月	学科ルーブリック評価の実施, まとめ
	1月	中間報告書等の資料作成に向けた担当主事との打合せ
	2月	研究の成果の検証と次年度への改善策の検討, 学校ホームページへの情報掲載 国立教育政策研究所研究協議会において中間報告

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

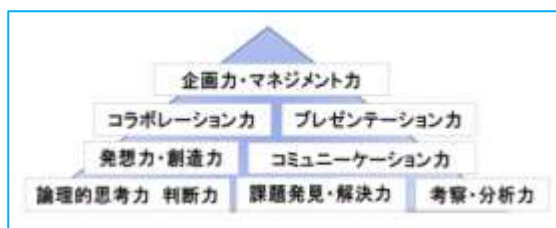
### (1) 研究内容

- ① 科目「生活産業基礎」, 「ファッションビジネス」における指導方法及び評価項目と方法の研究

- ア 地域産業である尾州の織物産業について興味・関心をもち、知識の定着を図るためのワークシート作成及び内容検証
- イ ファッションビジネスの視点を養う手法として、パフォーマンス課題の実施と学科ルーブリックによる評価と検証
- ② ICTの効率的、効果的な活用  
タブレット端末を活用した効果的な指導方法と評価方法の検討
- ③ 科目「日本史A」と学校設定科目「ファッションビジネス」、科目「国語総合」と「生活産業基礎」における教科横断学習の実施と検証

(2) 具体的な研究活動

- ① 科目「生活産業基礎」、学校設定科目「ファッションビジネス」における指導方法及び評価項目と評価方法の研究において、服飾デザイン科の目指す生徒像から、学科で身に付けたい力を再確認し、必要な資質・能力を八つ（図1）とした。測定の方法は八つを評価項目として設定し、評価規準をSABCDの五段階とした学科ルーブリックを作成し、パフォーマンス課題を中心とした評価を行った。



<図1 八つの資質・能力>

ア 科目「生活産業基礎」では、ワークシートを活用した授業を行い、本時の目標として地域産業の理解を確認するために、キーワードを設定し授業前と授業後に理解度を4段階で確認させたり、キーワードについての特徴を記述させたりした。

イ 科目「ファッションビジネス」では、地方発信のファッションビジネスの特徴を観察・分析し、今後、企画提案するオリジナル商品の魅力や価値を高めるために取り入れるべき視点を見つけ出すために、段階ごとにパフォーマンス課題（図2）を実施した。また、その課題に対するルーブリック評価は、学科ルーブリックをわかりやすく表現したものに変更し実施した。（図3）

ステップ1	講習会にて日本の地方から世界に発信しているファッション関連ビジネスについて知る。
ステップ2	岐阜発信のファッション関連産業について調査する。（夏休み課題）
ステップ3	岐阜発信のファッション関連企業の中から5つピックアップし、グループでリサーチを深め、発表資料をまとめる。
ステップ4	リサーチ結果から特徴・魅力・課題を発表する。
ステップ5	異なる企業をリサーチした者で構成されたグループで特徴を観察分析する。
ステップ6	分析資料をもとにオリジナル商品の企画提案に取り入れるべき視点をグループ討議を通して見つけ出す。
ステップ7	既習のファッションビジネスに関する基礎知識や、講習及びマーケットリサーチで得た情報も踏まえて地方発信の商品企画・提案に取り入れるべき視点を、グループ討議及び発表を通して見極める。

<図2 パフォーマンス課題>

定期考査では、パフォーマンス課題のステップ1から4を踏まえ、「課題発見力・考察力・分析力・論理的思考力」を測るために地域発信のファッションビジネス事情に関する記述式の問題を出した。

評価項目	A	B	C
論理的思考力・判断力	地方発信の強みを生かした商品企画提案に向けて取り入れるべき視点について論理的思考のもと判断し、選定している。	オリジナル商品の企画提案に向けて取り入れるべき視点について候補ある選定をしている。	商品の種類や価格、ターゲットなどの基本的な視点に注目し選定している。
考察・分析力	地方発信の強みを生かしたビジネスの視点に照らして分析している。	岐阜発信のファッションビジネスのリサーチ資料から特徴を分析している。	リサーチ資料から取扱商品等の基本情報が発見できている。
コミュニケーション力	読者の意見に共感しながら討議や発表内容に深みをもたせる意見を述べている。	商品企画提案を耳にしたグループ討議及び発表をしている。	相手の意見を聞き、自分の意見を述べている。

<図3 ルーブリック評価>

- ② ICTの効率的、効果的な活用  
タブレット端末の活用では、「調べる」「試してみる」「やり直す」といった作業について、労力と時間さらにコストをかけることなく、比較的容易に実践できる。Wi-Fi や Bluetooth を利用した無線通信機能や高品質な動画編集アプリは、OS やアプリのアップデート管理も容易な

ため、グループワークに向いている。科目「ファッションデザイン」において、生徒が製作した創作作品解説動画や学科案内を作成させた。評価は製作目的を明確化し、達成度を相互評価することができた。

### ③ 科目「日本史A」と「ファッションビジネス」、科目「国語総合」と「生活産業基礎」における教科横断的な学習の実施と検証

学科の生徒の興味・関心の高い分野に関連した課題を設定した授業を地歴科と国語科で行った。「日本史A」では、デザインの三要素である「色、形態、素材」を焦点に歴史的事項を学習し、「国語総合」では、現在の岐阜の地域産業が抱える問題や特徴についての連載記事を用いて学習したりすることで、考察したり、分析したりする力や論理的思考力を育むことができるよう指導方法を工夫した。

## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 外部講師を招聘したり、各種研修会に参加したりすることで、学科や科目に応じた評価方法について共通理解を図るとともに、課題を共有することができた。
- 学科の目指す生徒像から八つの資質・能力を設定し、3年間を見通した学科ルーブリックを作成し、評価規準を明確にすることができた。
- 科目「生活産業基礎」と「ファッションビジネス」において、授業内容に合わせたパフォーマンス課題と学科ルーブリックの効果的な活用を工夫することができた。
- タブレット端末を活用することで、専門家からの助言を受けながら生徒に必要な技能やプレゼンテーション力を高める授業を行うことができた。
- 教科横断型授業の取組は、生徒の特性を生かした効果的な授業実践ができ、カリキュラム・マネジメントを通じた授業改善をすることがわかった。
- 教科横断型授業の取組については、論理的な思考力を身に付けるための指導方法や評価方法も高めるために教員間の連携を深めその結果を検証していきたい。
- 企画、提案してきた作品や成果物について、地域の関係機関と連携を図り、その具体的な方策について検討する。

## 4 今後の取組

- 科目「課題研究」において、家庭科としてのビジネスの視点を総合的に学習するパフォーマンス課題を設定し、学科ルーブリックを活用して検証を行う。
- 学科ルーブリックについて、今後も生徒がより具体的に理解できる表現に改め、身に付いた資質・能力の確認を行うとともに、教員と生徒の共通認識を図る。さらに生徒自身の変容が可視化できるよう工夫するとともに、評価規準については年間指導計画に基づき、評価計画を設定するなど見直しをする。
- パフォーマンス課題やポートフォリオ課題、記述式の課題に関する評価、成果物の評価等について、より良い評価方法を検討し研究を進める。
- 課題や定期考査等に、論理的思考力を問う方法を検討し、生徒の深い学びに繋げる。
- ICTを活用した時のペアワーク、グループワークの効果的・効率的な評価方法について研究を進める。
- 教科横断的な授業を実施しその効果について、アンケート等を実施し検証する。

5 実施計画

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
平成 31 年度	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度に研究した指導方法と評価の修正と実践</li> <li>ICT を活用した授業方法と評価方法の検討と改善</li> <li>第 2 回研究委員会の実施</li> <li>公開授業（教科横断的学習等）及び研究討議</li> <li>事後アンケートの実施</li> <li>講義「教科横断型授業における評価について」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導内容、評価方法等に関する修正と指導・助言</li> <li>研究成果の共有化</li> <li>研究内容、研究課題の再確認、検討</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法と評価の修正と実践とまとめ</li> <li>第 4 回研究委員会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果の共有化</li> <li>外部評価</li> <li>研究の総括</li> </ul>

氏 名	職 名	役割分担・担当教科
猿井 久美子	校 長	企画運営：家庭
乙津 真由美	教 頭	企画運営：家庭
瀬下 裕基	教 諭	教育課程：家庭（教務部長）
澤田 尚子	教 諭	研究推進・教育課程・評価担当：家庭（服飾デザイン科科长）
各務 こづえ	教 諭	研究推進・広報：家庭（服飾デザイン科）
古川 静枝	教 諭	研究推進・広報：家庭（服飾デザイン科）
大矢 春美	常勤講師	研究推進：家庭（服飾デザイン科）
中村 親也	特別非常勤講師	研究推進・ICTの活用技術（服飾デザイン科）
郷 絵美	教 諭	研究推進：家庭（家庭部長・生活文化科長）
井坂 了	教 諭	教科横断型授業・地域産業理解・評価担当：社会
西村佐英子	教 諭	教科横断型授業・コミュニケーション力・評価担当：国語 （進路指導部長）
片桐 寛人	教 諭	教科横断型授業・評価担当：数学
山田 孝幸	教 諭	効果的な情報発信の検討（情報図書部長）
伊藤 さやか	講師実習助手	経理文書担当